



第5回地域ICT利活用 広域連携事業シンポジウム

どこでも、誰もが最適な医療を受けられる社会にしていくためには、限りある医療資源を最大限に活用したり、医療機関同士が連携し情報を共有する事により、無駄のない体制を構築する必要があります。情報通信技術（ICT）はこれを円滑に行う手段です。滋賀県では、県内の医療連携を図るICT利活用広域連携事業を進めており、その一環としてびわ湖メディカルネットと全県型遠隔病理診断ネットワーク（さざなみ病理ネット）があります。今回、第1部とランチタイム・セミナーで、滋賀県内や他県で行われている地域連携の医療情報システムを取り上げます。今や病理分野も国際的連携が求められる時代です。基調講演では、厚生労働省専門官に国の施策でもある医療の国際展開についてお話頂き、第2部で国内外の遠隔病理診断の現状を考えていきます。ふるってご参加ください。

日時： 2015年12月5日（土） 10:00 - 17:15
場所： コラボしが 21 大会議室（滋賀県大津市打出浜 2-1）
参加費： 無料

第1部 シンポジウム I. ICT利活用による地域医療の連携

- (1) びわ湖メディカルネット 今後の拡張の方向性
NTT データ経営研究所 中林 裕詞
- (2) 滋賀県の全県下脳卒中登録の構築と今後の課題
滋賀医科大学社会医学講座（公衆衛生学） 高嶋 直敬
- (3) 地域包括ケアにおける「淡海あさがおネット」の役割について
滋賀県医師会理事・本多医院 本多 朋仁

ランチタイム・セミナー（主催：滋賀県病理ICT協議会）

演題： “晴れやかネット”の現状と展望
演者： 医療ネットワーク岡山協議会 大前 進

基調講演： 厚生労働省における医療の国際展開について
厚生労働省医政局総務課 医療国際展開推進室
医療人材専門官 谷村 忠幸

第2部 シンポジウム II. 遠隔病理診断ネットワークの現状

- (1) アジア諸国の病理事情と遠隔病理診断の可能性
ロッシュ・ダイアグノスティックス株式会社 谷 洋一
- (2) 国内および海外との遠隔病理診断における問題点
国際医療福祉大学三田病院 病理 森 一郎
- (3) さざなみ病理ネットでの遠隔術中迅速診断の運用と現状
滋賀県立成人病センター研究所 病理診断・教育支援機構
黒住 眞史
- (4) 東京大学における遠隔病理診断ネットワークの現状（仮題）
東京大学医学部 遠隔病理診断・地域連携推進室
佐々木 毅

〈主催〉

滋賀県、滋賀県立成人病センター

〈ランチタイム・セミナー〉 主催:滋賀県病理ICT協議会

ランチタイム・セミナーでは100名様分のお食事を準備致します

〈その他〉

- ・ 医療情報技師 資格更新ポイント:1ポイント(15-053)
- ・ 企業の皆様へ: 機器の展示は可能です。連絡・問い合わせ先は下記まで

〈連絡先〉 滋賀県立成人病センター研究所

TEL 077-582-6034(直通) 担当:井関、倉本

FAX 077-582-6041

E-mail: kenkyu@shigamed.jp

会場案内

駐車場が完備されておられませんので、会場へは公共交通機関でお越しください。

コラボしが21「大会議室」

大津市打出浜2-1

TEL 077-511-1400

JR琵琶湖線大津駅からバス約7分

徒歩約20分

膳所駅から徒歩約15分

京阪電鉄石場駅から 徒歩約3分

